

彗星だより

1927e の彗星の発見 本年5月10日頃に近日點へ歸ることを豫期せられてゐたグリグースケレルプ彗星が3月27日に発見せられた。その発見のイキサツは最近着の國際天文同盟回報第145號に報ぜられてゐる。それによるさ、発見電報の中央局であるコペンハーゲンへ3月28日グリニチのハーグリーブス・マートン氏から次の様な電報があつた：

グリグースケレルプ彗星を3月27日萬國時20時45.0分に觀測す。その位置赤經5h 47m 0s 赤緯 $-4^{\circ}0'$ 、光級は12等極くホニヤリと4'の視直徑を有す御検査を乞ふ一體各地からこのコペンハーゲンへ寄せる発見電報は夫々發信者に於て責任をもつことになつてゐて、若し怪しい思ふ時分にはその旨斷り書きをすることになつてゐるのでグリニチの觀測者は確かに彗星と見極はめにくかつたものらしい。コペンハーゲンでもこんな斷り書きがあること故其儘各地へ電報することは見合はせて大きな望遠鏡をもつてゐる三、四の天文臺へのみ知らせたさのことであるこれに對する各地の返事がのせてある

(1) アメリカの中央局としてハーヴァード天文臺から3月8日付電報に曰く：グリグースケレルプ彗星は15等級まで寫つてゐるヤーキース及びハーヴァード天文臺の寫眞板によつても認められす

(2) ベルギーのウツクル天文臺からの手紙によれば：グリグースケレルプ彗星ならん3月21日萬國時19時55分40秒に於ける位置は赤經 $=5^{\text{h}}41^{\text{m}}1$ 赤緯 $=-5^{\circ}22'.7$ なり。尙ほ寫眞板は24cm平方にして中心星はBD $-5^{\circ}13'79$ 星その赤經は5h 40m 50s、赤緯は $-5^{\circ}23'42''$ である、但しコペンハーゲンからの電報を受取るまではその乾板を調査してゐなかつた。寫眞には薄くしか寫つてゐないが13等級と推定する。テルボールト

次に(3)獨逸のキール天文臺からの電報には：ベルゲドルフのシヨル臺長グリグースケレルプ彗星を觀測す3月31日萬國時19時38.7分の位置 赤經 $=5^{\text{h}}51^{\text{m}}44\text{s}$ 赤緯 $=-2^{\circ}55'$ 光級14等

(4) イタリアのピノトリネーゼ天文臺

からの電報には：グリグースケレルプ彗星3月30日萬國時20時6.4分觀測 赤經 $=5^{\text{h}}50^{\text{m}}32\text{s}$ 赤緯 $=-3^{\circ}12'$ 光級12m.5；同じく31日萬國時20時9.9分觀測 赤經 $=5^{\text{h}}51^{\text{m}}44\text{s}$ 赤緯 $=-2^{\circ}55'$ 光級12m.5 ヴォルタ

この様な風でアメリカで見出せなかつたのは不思議であるが、各所で確かめられたのだからハーグリーブス・マートン兩氏の発見したグリグースケレルプ彗星は1927eの彗星といふことになるのである。発見當時の光度は推定がまちまちで判然しないが先づ13等級のものであると見て間違ひはない、そして段々光輝が大になつて10等級位にまでは達するのであらう。

上記の觀測からこの彗星の近日點通過の時日を推定するさ、豫報のものさ大した差はない様で多分5月10日 $10^{\text{h}}40'$ 萬國時位のものだらうと考へられる。

このグリグースケレルプ彗星の來歴は1920年7月22日グリグ(J. Grigg)氏によつて発見せられたものであるが觀測が充分でなかつたのでその軌道の性質がよく解からなかつた。然るさこそ、1922年5月6日スケレルプ氏によつて発見せられた彗星が軌道計算の結果前のグリグ彗星と同じものだといふが知られたのである従つて1902年から1922年まで二十年間、中三回の出現は觀測されないまゝなのである。

1927 d 彗星 この彗星の軌道は早くカニンガム氏が計算せられたが、其後他の人々の計算したものと比較すると相當大きな開きのあることが知られる。

	カニンガム	メーラー・グストロムグレン	ストロムグレン	0.161
	日	日	日	
T	9月6.2	3月1.5645	4月20.2338	
ω	48 $^{\circ}59'$	6 $^{\circ}57'.64$	10 $^{\circ}38'.63$	
Ω	214 53	214 31.64	214 36.67	
i	92 29	87 8.15	87 33.38	
q	3.192	3.6790	3.6839	

近日點通過時(T)が可なり違つてゐるが尚ほ詳しくは今後の觀測に俟たなければならぬ。

只今年発見の新彗星がどれも90°に近い傾斜角をもつてゐることは面白いことである。